

ときわ病院理念

明るく開かれた精神科医療をめざし、「人権擁護の精神」を尊重し、社会福祉法人としての伝統と人間愛の精神をもって運営します。



ときわだより 第28号(春号)

〒921-8834 野々市市中林4丁目123番地

TEL(076)-248-5221(代表)

新型コロナウイルスが5類に移行してから、初めてのお花見シーズン到来です。ときわ病院敷地内の桜並木も満開になり、院内の療養病棟では久しぶりにお花見が行われました。患者さんからは「近くで見るとやっぱりいいね。」「桜きれいや〜。」という声が聞かれました。



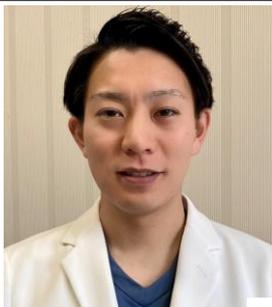
副院長就任のご挨拶



ないとう のぶしげ
内藤 暢茂 副院長

4月から副院長に就任しました。ときわ病院に来て1年が経ちました。この1年間の大きな変化は電子カルテを導入したことでしょう。業務効率は大幅に上昇しましたが、画面やキーボードを見る時間が増えてしまい、患者さんの目を見て話を聞く時間が減りがちです。時には手をとめて、しっかりと耳を傾けたいと思います。

新任医師のご紹介 4月から火曜AMと木曜PMの外来担当になります



わたなべ かつま
渡辺 優磨 医師 出身大学：金沢大学

前勤務地：公立松任石川中央病院

趣味：ゴルフ 筋トレ 旅行

抱負：まだまだ若輩者ではありますが、少しでも地域社会における精神医療に貢献できるよう努力してまいります。

外来診療のご案内はこちらのQRコードでご確認ください



災害派遣精神医療チームとして 被災地（珠洲市）に赴きました

能登半島地震直後に始動した災害派遣精神医療チーム（以下DPAT）では、全国各地の精神医療機関のチームが現地に派遣されています。ときわ病院では、精神科医師、看護師ら4人で編成されたチームが2月と3月に被災住民の心のケアを行うために派遣されました。現地では精神科医療の提供をはじめ、被災地域の精神保健医療ニーズの把握や各種関係機関と連携して、マネジメントを行いました。



派遣された隊員からは、「震災から時間が経過した今も現地の復旧は進んでいない地域もあり、まだ倒壊した家屋やガレキの山で、震災直後から時間が止まっている状況です。避難生活を余儀なくされている方や、とくに自宅にいる方の中には、不眠でも次の地震が怖くて眠剤を飲めない方や、震災で家族を失い1人残されたという方もいました。家・体・心を壊されてしまった方々の心境は計り知れないものだと思います。被災者は一旦震災以外の事を考えて心を休める事も難しい、気持ちの休まる時間がない環境で大きなストレスを抱えています。これからも継続した心のケアが重要です。」と報告がありました。

ときわ病院DPATは5月にも支援を行う予定です。今後も当院では被災地、被災者の状況を注視しながら、可能な限り支援を行っていきます。

～ DPAT統括者 内藤暢茂 医師 より ～

『孤立』は万病の元です。DPATの活動を通して、メンタルヘルスに欠かせないものはコミュニティであることを実感しています。『繋がり』は百薬の長だと思います。精神医療チームとして今後も被災地の各関係機関と連携し、求められる支援を行っていきたいと思います。

無料個別相談

【場所】ときわ病院1階相談室

【時間】9：30～10：30

月日	テーマ	担当部署
5月11日(土)	医療費の低減、還付制度について	医事・総務課
6月 8日(土)	テ 々アオープンDay「精神科テ 々アをご存じですか」	デイケア
7月13日(土)	入院から退院までのご相談について	西3病棟

家族交流会

【開催日】第2土曜日

【時間】10：00～11：00

精神疾患をもつ人を身内にかかえるご家族が、悩みを語り合い、分かち合う会です。

初めての受診・入院のご相談は地域連携室までお願いします

当院の外来患者が大変込み合っており、2週間程度の日程調整が必要な状態となっております。事前のご連絡をお願い致します。

入院につきましては お急ぎの方は、可能な限り対応させていただきます。

TEL：076-248-5221（代表） TEL：076-248-9502（地域連携室直通）

